

## 教材研究 Do's and Don'ts

南 村 俊 夫

## Reading

英文を読んで理解するためには数多くの事柄を知っていなくてはならない。例えば We cannot know too much about the language we speak every day of our lives. という文を考えてみよう。まず、単語や慣用表現などの語彙を知らなければ理解はできない。例えば、cannot ~ too は慣用表現のうちの一つで、これを知っていることがこの文の理解の必要条件である。次に文法（統語法）を知らない場合もこの文の理解はできない。we speak every day of our lives が関係詞節で the language を修飾していることを知っていることも必要条件なのである。文の理解のための必要条件はこの2つでよいのだろうか。例えば、

We cannot know too much about the language we speak every day of our lives. Most of us, it is true, can get along fairly well without knowing very much about our language and without even taking the trouble to open a volume of "The Oxford English Dictionary." But knowledge is power. (S. Potter *Our Language*)

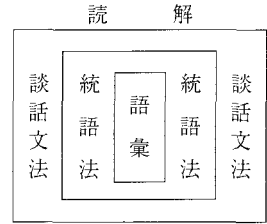
この文章の中で最初の文はどういう働きをし、この段落はどういう構成になっているのだろうか。全体を読んでもと、Knowledge is power. That's why we cannot know too much about the language .... という因果関係の論理展開になっていて、最初の文はこの段落の主題文 (key sentence) なのが見える。全体を訳すと、「日常生活で毎日我々が話している言葉（英語）についてはいくら知っていてもそれで十分とはいえないのである。なるほど、英語をあまり知らなくても、またわざわざ O. E. D. の一巻を開かなくても結構うまくやっていくことはできるだろう。だが、何とんでも知っていることは自分の力になることなのである」のようになる。

このような一文単位ではなく、文章の中である語やある文の働きなどを考えて、文章全体を読もうとする読み方を Paragraph Reading と言い、この観点からみた文章の構成法を談話文法 (discourse grammar) と呼んでいる。ある英文の「読解」は、その英文の語彙・統語法にこの談話文法の理解を加えて初めて完成すると言えよう。右の図のように理解が行われていく。従って、この項では語彙、統語法、談話文法

の順に取り上げていくが、いずれの場合も全てを網羅することはできない。ただ、どうしても忘れてはいけなない事柄は取り上げていきたい。

#### A 語彙（慣用表現を含む）

語彙の指導法はその表す意味がどういう意味であるか、またその語とよく似た他の語とどう違うか、などが Reading では必要になってくる。それだけではない。動詞を中心とした文を修辭的な意味から名詞を中心にした文にしてしまう場合が英語には多い。これを元の動詞を中心にした文にすることによって reading での理解がいつそう図られ、指導がさらに有効になる場合もあろう。また、語根を知っていることで意味の類推がきき、スムーズな reading につながる場合もある。さらに、慣用表現をどう指導するか、前置詞、冠詞など機能語のうちのいくつかをどう理解すればよいかなどの問題がある。このような観点から語彙の理解・指導の方法を考えてみよう。



#### (1) 同意語および意味のよく似た類義語

##### Do's and Don'ts 19-1

同意語・類義語は訳の日本語を較べてはいけなない。それぞれの語がどういう特性をもっているかを考えその尺度で測れ。その特性の1つが「プラス指向」と「マイナス指向」である。

同意語、あるいはほぼ同じ内容になる語は数限りなくある。例えば、cool と chilly という語を較べてみよう。cool は「涼しい」、chilly は「冷たい」が英和辞典にある。ほぼ同じ意味である。日本語でそのまま与えると「涼しい」「冷たい」はまず混同されるだろう。英英辞典から示してみよう。

cool: neither warm nor cold; pleasantly cold (LDCE) Our hotel room was lovely and cool. (LEA)

chilly: noticeably cold, cold enough to be uncomfortable It grew chilly when the fire went out. (LDCE)

英英では2つの語の違いがよくわかる。つまり、cool には「快適さ」があり chilly には「不快さ」があるのが一目瞭然なのである。同じようなことが childlike 「子供らしい」と childish 「子供じみた」や famous 「有名な」と notorious 「悪名高い」などの語にみられる。cool, childlike, famous は「肯定的」あるいは「プラス指向」の語であり、逆に chilly, childish, notorious は「否定的」、「マイナス指向」の語なのである。よく観察すると、同意語や類義語と言われるものの中にこのような尺度で考えるとよく理解できるものが多いことがわかる。このような尺度に目をむける

ことが同意語や類似語の理解や指導に欠かせないのである。

【指導】 (+)指向と(-)指向の同意語の指導は次のように行くとよい。

T：次の2つの英文を見てみよう。(1) He is lazy. (2) He is idle. 意味はどうだろうか。S-1さん。

S-1：(1)も(2)も「彼は怠け者だ」の意味です。

T：その通り。(1)はいつも「彼は怠け者だ」の意味ですし、(2)も場合によってはそういう意味になることがあります。では、lazy と idle は同じ意味なのでしょう。次の文を見て下さい。

These men are idle because there is no work for them. (CULD)

この文を訳してみましよう。S-2君。

S-2：「この人達は仕事がないから遊んでいる。」

T：よくできましたね。この文では idle という語は not working, つまり「仕事をしていない」の意味です。では今度は lazy の例を見てみましょう。My lazy brother never cleans his car. (OELDE) これはどういう意味ですか。S-3さん。

S-3：「僕の兄は怠け者で自分の車を決して掃除しない。」

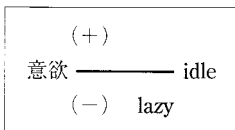
T：そうです。lazy は not wanting to work の意味です。このそれぞれの文の idle と lazy の意味を並べてみましょう。(板書)

	英語の意味	日本語の意味
idle	not working	働いていない
lazy	not wanting to work	働きたくない

idle と lazy の大きな違いの一つは lazy の英語の意味に見られる下線部の意味です。つまり、lazy には「意欲の欠如」

が見られるのです。これに対して idle にはその意味がないのです。

これを次のように図にしてみましょう。



「意欲」という点からみると idle は意欲の点で (+) でもなければ、(-) でもないのに、lazy の方は (-) 指向の意味合いが強いことがわかります。このように同意語と言われるものの中にはある基準に照らしてみると (+) 指向か、(-) 指向かを意味を考えるうえでの目安にするるとよいのです。

idle と lazy は lazy が「悪い」意味で使われるのに対し、idle は必ずしもそうではないのです。

指導用例

Sentenceでの指導：Advances in medical science have brought about improvements in public health. (LEA)

The fire caused \$ 30,000 worth of damage. (LEA)

その他の例：event/accident(出来事)boast/brag(自慢する)common  
/vulgar(普通の)など。

Do's and Don'ts 19-2

「具体」的な意味を中心にした語か、「抽象」的な意味を中心にした語かという尺度で同意語や類義語を計れ。

He is a strong man. と He is a powerful man. を較べてみよう。共に「彼は力が強い」と訳すことができる。strong と powerful が人を修飾した場合の意味を調べてみよう。

a strong person: Someone who is strong has big muscles and can lift heavy things, do a lot of physical work, etc. It took four strong men to lift the piano. 「そのピアノを持ち上げるのに屈強な男4人が必要だった。」(LEA)

a powerful person: A powerful person, group or organization has a lot of influence over events, for example, because they are very rich or they hold an important position. Murdoch controls dozens of newspapers and TV stations, and is an immensely powerful person. 「マードックは何十もの新聞やテレビ局を支配している非常に影響力のある人物である。」(LEA)

2つを較べてみると、strong は肉体的に「力がある」という具体的な意味を持ち、powerful は肉体的からさらに意味を広げた「影響力がある」という抽象的な意味があることがよくわかる。このような尺度で同意語・類義語を理解し、指導するとよくわかる語がある。small vs little や large vs big では little や big に感情が入って「具体」から少し「抽象」へと進んだ語であり、machine vs machinery や poem vs poetry などの個から全体へと移った語もこの類だろう。さらには destine から分かれた destiny (運命) と destination (目的地) のような同じ語根から分かれた語の場合もこの考えで見るとよい。

[指導] 「具体」と「抽象」の尺度でみる同意語の指導は次のように行くとよい。

T : He received a medal for an act of bravery. (BBSA) (板書) の文の意味がわかりますか。S-1君。

S1 : 「彼は勇気ある行動でメダルをもらった」です。

T : その通りですね。では次の文ではどうでしょう。We need action, not words. (WBW) (板書) S-2さん。

S2 : 「我々に必要なのは行動であって、言葉ではない」です。

T : よくできました。訳にある「行動」という語は、最初の文では act ですが、後の文では action です。

共に「行動」と訳されるこの二つの語に違いはあるのでしょうか。この文を考えてみましょう。

- (1) Tom was laughed at for a stupid act.  
 (2) Action, not talking, is necessary if we are to defeat the enemy.

(1) は「トムは馬鹿なことをしたので笑われた」、(2)は「もし敵に勝とうとすれば言葉ではなく行動が必要だ」の意味になります。(1)では「馬鹿なこと」を表すのに a stupid act と act に a がついていますから「トムが一回馬鹿なことをした」ことがわかります。これに対して(2)では「行動」は一回きりのことではなく「敵を破るために様々な行動を起こす」ことのような意味になっています。そこで act と action の意味を辞書で引いてみましょう。

act: something that you do (OELDE) (板書)

action: doing things (OELDE) (板書)

この2つを見比べてください。act は一回の行為であり、action は(ある期間の全体の)いくつかの行為を指すものになっていることがわかります。ですから、誰かが犬を棒で殴りつけたら、それは an act of cruelty であり、階段を上る老人の手を引いてあげたら、それは an act of kindness なのです。これに対して、action という語は一回、一回の行為をさすのではなく、一定期間の行動を表すのです。ですから、上例の(2)の action は「(これから敵を破ってしまう間にとるべき)様々な行為」を表していることになります。このように考えてみると act が具体的な一つの行為を指すのに対し、action は抽象性が少し入った数では数えられない「一連の行動」を表しているのです。この関係は、一個の宝石を表すのに a jewel を、宝石類全体を表すのに jewelry を使うのとよく似ているのです。act と action をこのような考え方で考えてください。

指導用例

Sentence での指導：In the evening your shadow is longer than you are.

(the 'picture' made by an unlighted area) (PEU)

I'm hot. Let's sit down in the shade of the tree.

(protection from the sun) (PEU)

その他の例：base/basis (基礎) link/bond (繋がり) track/trace (跡) など

Do's and Don'ts 19-3

「程度・度合い」という尺度で同意語や類義語を考えよ。

He is famous. と He is well known. を較べてみよう。どちらも「彼は有名だ」と

という意味である。

この2つの語は「有名さの度合い」が違うのである。例えば、有名なシドニーのオペラハウスは Sydney's famous Opera House のように famous を使う。その違いを LEA で調べてみよう。

famous: famous people, places, books etc are known about and talked about by many people in many places — *David Copperfield* is one of Dickens' most famous books. (LEA)

well known: fairly famous especially in a particular place or among a particular group of people — She works in local radio, and is quite well known in the Houston area. (LEA)

この LEA の説明から well known が世界の中の一地域、一グループの人々の間で「有名な」であるのに対し、famous は世界中で、どのグループの人々にも「有名な」の意味がわかる。つまり「有名さ」の度合いが2つの語では異なっているのである。同じようなことが possible と probable で言える。前者は起こり得る確率がほぼ50%であるのに対し、後者は80~90%くらいの確率になると思えばよい。advise と say somebody should do something は前者がいろいろな経験、知識をもとにした助言であるのに対し、後者はその場での思いつき程度の助言 (LLA) なのである。これも2つの語句の「程度・度合い」の違いをもとに判断すると理解や指導が便利な例なのである。

[指導] 「程度・度合い」の尺度でみる同意語の指導は次のように行うとよい。

T : Maria sings fairly well, but she needs more lessons. (LEA) (板書) この英文はどういう意味だろうか。S-1君。

S-1 : マリアはかなり歌が上手だが、もっと練習が必要だ。

T : その通り。では次の文はどうだろう。Gail seems rather unhappy today. (LEA) S-2さん。

S-2 : ゲイルは今日はかなり不幸のように思える。

T : それでいいでしょう。二人に訳してもらいましたが、二人は fairly と rather をともに very に近い意味で訳してくれました。日本語に訳すと二つの語の意味の違いははっきりしません。そこで、それぞれの語の違いの説明を (PEU) から見てみましょう。(fairly と rather の説明をプリントで渡す)

If you say that somebody is *fairly nice, or fairly pretty*, it is not much of a compliment. If you describe a film as *fairly good*, you probably mean it is just worth seeing, but not worth going a long way to see. A person who speaks a language *fairly well*, can communicate successfully on everyday subjects, but might not be able to take part in a difficult discussion. (PEU)

この英文を訳してみましよう。「だれかが *fairly nice* [かなりいい人だ] とか *fairly pretty* [かなり美人だ] のように *fairly* を使う場合があるが、この表現だと相手に対する褒め言葉にはならないのである。もし、映画を *fairly good* [かなりよい] と、*fairly* を使って評した場合は、その映画は、まあ見て悪くはないが、遠い所からわざわざ見に行くほどのものではないの意味である。ある言語を *fairly well* [かなり上手に] 話す人は日常の会話ではうまく話しができて、難しい討論には参加できない場合がある、という意味なのである。」この説明からわかるように *fairly* という語は「かなり」ではあるが、「ひどく」ではないの意味なのです。日本語では「まあまあ」のような意味が一番よく当てはまります。この英文を訳してみてください。He's just written a new book. It's fairly interesting, but certainly not his best. (PEU) (板書) S3さん。

S3：彼は新しい本を書いた。まあまあ面白いが、彼の最高の作品とは言えない。  
T：その通りです。日本語の「かなり」より、「まあまあ」のような日本語がよく合うのは上の文の *but* 以下の文から考えるとわかりますね。それでは *rather* という語の説明を (PEU) から見てみましょう。

*Rather* often means more than is usual, or more than is expected, or even more than you want. If a film is *rather good*, it is better than most. A person who speaks a language *rather well*, is certainly a good linguist. If you say that a person is *rather nice*, you sound pleasantly surprised – perhaps you were not expecting them to be so nice. If it is *rather hot*, you may feel a bit uncomfortable. (PEU)

この英文の訳は次のようになります。「*rather* には次の意味の場合が多いのです。それは、普通以上に、思っていた以上に、あるいは望んでいた以上に、ということです。例えば、映画が *rather good* [かなりよい] と言えば、たいいの映画より良い映画だ、ということであり、ある言語を *rather well* [かなり上手に] 話す人はその言語が確かにできる人である、という意味であり、ある人が *rather nice* [かなり感じのよい] 人だ、とせば、言ったあなたの口振りには「えっ！あんなに感じのよい人なの。」という驚きの感情が聞き取れる、つまり、相手の人がそれほど感じのよい人だとは思っていなかった、という意味なのである。また、*rather hot* [かなり暑い] とせば、すこし不快に感ずる暑さなのである。」以上の説明から考えて、*rather* は日本語では「ひどく」くらいが当たるのではないのでしょうか。それでは次の英文はどういう意味になりますか。There's something rather strange about the way he talks to you; I don't feel comfortable with him. (PEU) (板書) S4君。

S4：あなたに話しかけている彼の話し方にはひどく異様なところがある。私は彼

と一緒にいると不愉快な気持ちになる。

T : Good. このように日本語の「かなり」でははっきりしない **fairly** と **rather** も「まあまあ」と「ひどく」のように訳すと違いがわかるようになります。このように、語の意味を程度・度合いの尺度で考えるとうまくいく場合があるので、**fairly** や **rather** によく似た副詞、**quite** と **pretty** を併せて表でその程度・度合いを見てみましょう。(PEU) は4つの語を **not** ~ **very** までの線の上に表しています。

<b>not</b>	<b>fairly</b>	<b>quite</b>	<b>rather/pretty</b>	<b>very</b>
<b>nice</b>	<b>nice</b>	<b>nice</b>	<b>nice</b>	<b>nice</b>

この表の説明に、イントネーションの違いなどにより意味が変わることもある、ことが付け加えられていますが大まかには **not nice** から **very nice** までの間のそれぞれの程度・度合いが理解できるでしょう。日本語の「かなり」の訳語が与えられている **fairly, quite, rather / pretty** には程度・度合いにこれだけの差があるので。

指導用例

Sentence での指導 : Many people find it difficult to express anger.

Steffie felt nothing but rage at the lies she had been told. (LLA)

David and I found a quiet corner where we could talk. (LEA)

The streets of the city were silent in the moonlight. (LEA)

その他の例 : **effort** < **endeavor** (努力) **evidence** < **proof** (証拠) **afraid** < **fearful** < **frightened** (恐ろしい) など。

Do's and Don'ts 194

英語で意味が分化している語を理解する場合は、中心の語だけを取り上げてはいけない。語句を補い、説明的に意味を理解し、指導せよ。

日本語では、「当然の権利として要求する」と「法律や地位などを根拠にして目下の者に要求する」は「要求する」という動詞に下線部のような語句を補って表す。つまり、どちらも「要求する」という動詞で使えるのである。ところが英語ではそうはいかない。それぞれを前者は **claim**、後者は **demand** のように2つの動詞を使い分けなければならない。同じようなことが「指」という語の場合に起こってくる。日本語では手の「指」でも足の「指」でも「指」であり、親指でも小指でも「指」なのである。ところが、英語では「手の指」は **finger** であり、その

日本語	英語
要求する	<b>claim</b> <b>demand</b>



中の「親指」が thumb, 「足の指」は toe と単語が違う。これらの例のように、日本語では1つの語に他の語を添えて表すが、英語ではいくつにも分かれている場合、つまり、日本語1に対し英語がいくつかに分化している場合は右の図のような対応だと英語の場合の語の真の理解が困難となり、その指導にも齟齬を来す恐れがでる。英語が1語で日本語にいくつかの語が配されている wear のような、上の例と逆の場合は理解するだけの段階では必ずしも困難ではなからう。従ってここでは取り上げていない。

【指導】 「英語で意味の分化が見られる語」の指導は次のように行うとよい。

T : 次の英文を考えてみよう。The school isn't the one I really wanted to go to, but I suppose I'll just have to make the best of it. (LEA) (板書) 前半の意味は? S-1さん。

S-1 : 「その学校は私が本当に行きたい学校ではなかった。」

T : Very good. 後半の it はそういう状況を指しています。ですから、そういう状況を best なものにしないで、ということから、後半の意味は「しかしその中で精一杯頑張らなければならないだろう」くらいになります。もう一つ、次のような英文を考えて下さい。George studied hard. He wanted to make the most of his chance to learn. (DAI) (板書) 前半の文は訳せるでしょう。後半の意味がわかりますか。S-2さん。

S-2 : わかりません。

T : どこがわかりませんか?

S-2 : make the most of his chance のところです。

T : chance はわかりますね。わからないのは make the most of ~ の意味でしょう。では、辞書を引いてみて下さい。できましたか。

S-2 : 「できるだけ利用する」です。

T : それでは訳せますね。

S-2 : 「彼は勉強する機会をできるだけ利用したいと思った。」

T : その通りです。では最初の文の下線部の意味と今、訳した文の下線部の意味を比べてみましょう。

どちらも「～をできるだけ利用する」という意味でしたね。

ところが、この最初の文の前半部分を見て下さい。

「その学校は私が本当に行きたい学校ではなかった」となっています。make the best of を使った方は、主語にとって具合の悪い状況ができていることに気がつきませんか。それに対して後の make the most of の文の方にはそういう状況が示されていません。同じ「できるだけ利用する」でも、前者には「逆境の中で」の意味が入り、後者にはそのような意味がないのです。右にそれを表で示

してみましょう。

make the best of と make the most of の2つの表現の違いについては理解できたとします。従って、make the best of が使われている場合は、例にあげた文の前半のような逆境に当たる部分をさがし、それを考慮してうまく日本語にしていける必要があるのです。こうして初めて語句の意味が理解できるというわけです。ところで、日本語では同じような語句が、英語では異なって使われている場合にその違いを我々がなかなか理解できない大きな理由の一つは右の表の(A)と(C)を直結してしまい、間にある(B)

を全く考慮しないために起こっているのです。例えば、permit と allow という動詞があります。どちらも「許可する」という意味だと承知しています。ところが、上の表の(B)に当たるところを考えに入れて2つの動詞を考えると、permit が「(積極的に)許可する」であり、allow は「(消極的に)許可する」であり、だからこそ、Do your parents allow you to stay out late? (AEP) 「あなたの両親はあなたが遅くまで外出していても何も言わないの」のような「放っておく」の意味が allow に出るのです。文を読んでいく場合、文を作っていく場合、共に上の表の(A)と(C)との直結は誤りに繋がりがかねないことを注意しておきましょう。

(A)日本語	(B)状況	(C)英語
できるだけ利用する	制限無し	make to most of
	逆境の中で	make the best of

#### 指導用例

Sentence での指導：We have a rule that the loser of the game buys every one a drink. (LDCE)

The new regulations are very strict about what you can and cannot bring into the country. (LLA)

その他の例：inside out/upside down/in the wrong way round(逆) disappear/vanish (消える) safety/security (安全) complete/perfect (完全な) low/short (低い) など

#### Do's and Don'ts 19-5

formal か informal かという尺度で同意語や類義語を考えよ。

入学試験の試験場でこれから答案用紙を開けて始めなさい、という意味の日本語は「始めなさい」でよい。「赤ちゃんが泣き始める」の場合も「始める」を使う。なにか動作を始めるには「始める」という動詞でよい。同じ場面を英語で表すと、前者は formal な Commence! という表現を使い、後者は informal な The baby began to cry. のように表される。このように英語には formal な表現の場に特有の語と

そうでない語がある。もう一つ例をあげよう。heed と pay attention to である。

heed: If she had only heeded my warnings, none of this would have happened. (もし彼女が私の警告に注意を払っていたらこんなことは起こらなかったのに。) (LDCE)

pay attention to: Don't pay any attention to him – he's always saying stupid things. (彼の言うことを気にかけなくていいんだ、彼は馬鹿なことばかり言っているのだから。) (LDCE)

heed は formal (格式語) であるのに対し、pay attention to はごく普通の表現なのである。語や句をこの観点から見るとも語句の理解に繋がり、十分な指導ができるというものである。

【指導】 「formal/informal の観点から」の指導は次のように行うとよい。

T : 次の英文を見てみましょう。Please help me. This is very heavy. この英文は「手伝ってくれないかい。ひどく重いんだ」という意味です。同じ内容を少し形式ばった言い方で表してみましょう。

I need your assistance with this heavy load. (OELDE) help の代わりに assistance を This is heavy. の代わりに heavy load を使っているのです。内容は同じなのですが、使われる場が違ふと考えたらいいでしょう。語の中には、丁度、日本語の丁寧語のような語と日常よく使う語があり、それぞれを使った文を場面、場面でうまく訳していかなければなりません。

指導用例

Sentence での指導：Formal – We should be delighted if you would pay us a visit this evening. (LDAL)

Informal- Why don't you come around this evening? (LDAL)

(2) 品詞の転換

Do's and Don'ts 20

動詞・形容詞からできた名詞、人を表す名詞などは、そのまま訳してはいけない。元の動詞や形容詞を生かして訳せ。その際、主述の関係、動詞・目的語の関係、形容詞を副詞に変えるなどの操作が必要である。

高等学校ではよくこの名詞の動詞形は、とか、この形容詞の名詞形は何か、と授業で尋ねる場合がある。このような品詞の転換は一体何のために行われているのだろうか。次の文を読んでみよう。The importance of context in the interpretation of meanings varies from one discourse to another. この文を「意味の解釈における文脈の重要性は談話ごとに異なる」と日本語にしてもわからなくはない。この文の importance を形容詞の important に、interpretation を動詞の interpret に変えて、下線部

を Context is important when we interpret meanings. の文にし、「意味を解釈する場合、文脈は重要である。が、その重要性は談話ごとに異なっているのである」のように訳すとこの英文の内容がもっとはっきりするのである。もう一つ例をあげよう。

Any careful observer of my habits would know that I'm on the eve of my adventure. (Gardner *Windfalls*) 下線部を「私の習慣の注意深い観察者なら誰だって」と訳すことも可能である。が、これを *Anyone who observes my habits carefully* と考え、「私の習慣を注意して見ている人ならだれだって」のように訳していく方がもっとわかりやすい訳になるのである。動詞や形容詞からできた名詞を元の動詞や形容詞に変えることは名詞を修飾していた形容詞を副詞に変えたり (*careful* → *carefully*)、動詞と主語あるいは目的語の関係を復元する (*the importance of context* → *Context is important, observer of my habits* → *observe my habits*) ことでもある。

品詞の転換を指導する意味の一つがこのような訳を可能にすることなのである。

[指導] 「転換された品詞」の指導は次のように行うとよい。

T : ある文を名詞の塊にしたり、逆に、名詞の塊を文にすることができます。この場合に必要なのが、品詞の転換です。少し練習してみましょう。Tom arrived. という文は「トムが到着した。」の意味ですね。

これを「トムの到着」という名詞の塊にしてみましょう。arrive という動詞の名詞形を知っていますか。S-1君。

S-1 : arrival です。

T : その通りです。では「トムの到着」というのですから、英語でどう言えばいいでしょう。S-2君。

S-2 : Tom's arrival です。

T : Good. もう一つ、the arrival of Tom とも言えるのです。今度は、We were grateful for the doctor's quick arrival. (MEF) のような文中に the doctor's quick arrival という名詞の塊が入った場合を考えてみましょう。the doctor's quick arrival は文にするとどうなりますか。Tom's arrival と同じように考えてください。S-3さん、どうですか。

S-3 : The doctor arrived quickly. です。

T : そうです。the doctor's quick arrival だけなら S-3さんの言った The doctor arrived quickly. ですが、we were grateful という過去の時制が先に示されていますから、The doctor had arrived quickly. と考える方がよいのです。この文を we were grateful for の後に続けてみましょう。We were grateful for (the doctor had arrived quickly). となりますね。be grateful for ~の意味はわかりますか。S-4さん。

S-1 : 「~に感謝する」の意味です。

T : そうすると、全体の意味は「私たちは [お医者さんがすぐ来てくれた] に感謝した」という意味になっているはずですが。We were grateful for the doctor's quick arrival. の意味は、「私たちは [お医者さんがすぐ来てくれた] に感謝した。」の [ ] を取り外して「私たちはお医者さんがすぐにやって来てくれたことに感謝した」となるのです。このように、文からできた名詞の塊を訳す場合はそれを元の文に戻して訳すとよいのです。このような文からできた名詞の塊のことを名詞構文と呼んでいます。この「名詞構文」を作ったり、理解したりするのに必要なのが名詞を動詞に変えたり、形容詞を副詞や名詞に変えたりする語の転換、つまり語形変化なのです。ですから、die を death や dead に変えることのできることは、実は文を理解するのに大きな鍵になるのです。

## 指導用例

Phrase での指導 : his innocence, a lover of nature, the sight of the clock

Sentence での指導 : Most dogs have a hatred of cats. (PAP)

The news of her death was a great shock to her.  
(Hornby Guide)

## (3) 接頭辞 + 語根 + 接尾辞

## Do's and Don'ts 21

接頭辞・接尾辞だけを知って満足してはいけません。語の意味を理解するには語根も重要な要素なのである。接頭辞・接尾辞 + 語根で語を指導せよ。語の意味の幅が広がり、知らない語を類推できる。

dis- という接頭辞が否定を表す、-tion という接尾辞が名詞を示すものだと言うことはだれでも知っていることである。ところが、-scri- という語根が「書く」の意味だということは案外知られていないのである。-scri- が「書く」の意味を持つようになった経緯は「引っかけ」、「こする」などの音から生まれたものであろう。この音と意味の結びつきはともかく、-scri- に「書く」の意味があり、これに接頭辞を使った語には次のような語があることを示してみよう。

prescribe (pre- + -scri-) : 「前に書く」→「処方する」

describe (de- + -scri-) : 「下に書く」→「描写する」

inscribe (in + -scri-) : 「中に書く」→「刻む」

manuscript (manu- + -scri-) : 「手で書かれたもの」→「原稿」

この他にもいくつも例をあげることはできる。このように語根は語の意味を決定する大きな要因になっている。通常、接頭辞・接尾辞を授業で触れることはよくある。が、語根までを併せて知っておかなければ語の意味という点では不十分と言わねばならない。

【指導】「語根」の指導は次のように行うとよい。

T : The prime minister curtailed his speech. という文の意味がわかりますか。S-1さん。

S-1 : curtail という単語の意味がわかりません。

T : curtail という語の成り立ちを考えてみましょう。tailor という単語を知っていますか。

S-1 : 仕立屋ですか。

T : そうです。tail という語と -or という語尾が付いてできた語です。-or という語尾は「人」を表す語尾だということは知っていますね。例えば、actor, doctor などの語尾がそうです。では、tailor は「tail する人」ということになるのですが、何をする人なんでしょう。わかりますか。

S-1 : ?

T : tail は「切る」という意味があるのです。例えば、detail という語があります。de- という接頭辞は away from の意味があります。ですから、detail は「他から離れてばらばらになるように切ったもの」の意味から「細部」という意味になっているのです。このように考えると tailor は「切る人」から、「仕立屋」の意味ができたのです。そこで問題の文です。curtail の中に、tail があるのがわかりますね。ですから、「切る」という意味が入っていることがわかるでしょう。これだけで全体の意味の見当がつかはずです。S-1さん、どうですか。

S-1 : 「総理大臣は演説をカットした」ですか？

T : Very good. curtail の cur は「流れ」の意味です。従って、全体の流れを切る、ということから、「省略する、短縮する」の意味になっているのです。このように、意味のわからない語がある場合には、その語の成り立ち、特に語根や接頭辞、接尾辞などから類推すると案外意味がわかるのです。

指導用例

Words での指導 : accept/concept/except/intercept

Sentence での指導 : They are planning to construct a new supermarket near our house. (CULD)/The Eiffel Tower is one of the most famous structures in the world. (CULD)/The road was obstructed by a fallen tree. (CULD)

(3) 慣用表現 (動詞句を中心にして)

Do's and Don'ts 22

動詞句のような慣用表現は一つ一つを憶えさせてはいけません。その慣用句と同じ特徴や特性をもつ他の慣用表現を一纏めにして提示し、その理由を示してやる必要がある。こ

れができる、前置詞や副詞からその動詞句の意味を判断できる。

make A of B という慣用句がある。「B を A (に) する」の意味である。たとえば、*Make the most of the sunshine; we don't get much in the winter.* は「お日様を十分楽しんでおこう。冬にはあまり日があたらぬのだから。」(LDPV) の意味になる。この「B を A にする」の訳し方で他の make A of B の型の慣用表現を見てみよう。

make light of... : 「... を軽く見る」*The climbers made light of the difficulties and dangers they had faced in reaching the top of the world's highest mountain.* (LDPV)

make the best of... : 「(大変だが) ... を (せいぜい) よくしようとする」*I'm sorry you failed the examination; try to make the best of the bad job — you can always try again next year.* (LDPV)

make a fool of... : 「... を馬鹿にする, 騙す」*The man who sold me this car really made a fool of me; it will never run properly.* (LDPV)

make use of... : 「... を使う」*If you don't want that box I can make use of it.* (OELDE)

この他にも make A of B のタイプの慣用表現はたくさんある。いずれも「B を A (に) する」のように訳すとだいたいうまく訳せるのである。make light of や make the best of など一つ一つ憶えていくのではなく、中心になる make A of B だけを憶え、全体を類推していくのがうまい指導の仕方と言える。このように慣用句の指導方の一つは特性なり、ルールなりを使って多くの慣用句をまとめて提示することなのである。

このような纏めは結果的には make A of B の of に視点をあてることに通じ、ある動詞句を見た時、その動詞句を make A of B のグループの一つだと認識することになる。それが理解を容易にするのである。

他の例では「除去・離脱」の of を使った rob (cure, deprive, break, clear, etc.) A of B や「供給」の with を使った cover (fill, decorate, supply, etc.) A with B などの表現があげられる。

**[指導]** 「動詞句を中心にした慣用表現」の指導は次のように行うとよい。

T : *The teacher used to tell me off for not doing my homework.* (CULD) という文を考えてみましょう。

used to ~ は「昔はよく~した (が今はそうでない)」という過去を表す合図です。ではどういう意味になるでしょう。わかりましたか。S-1君。

S-1 : 「昔、僕が宿題をしなかったために、先生はよく私に言った…」*tell me off* はどう訳すのですか。

T : *tell me off* の意味を考える前に、後に続く for がどのような場合に使われて

いるか考えてみましょう。例をあげてみましょう。(板書)

- (1) His father blamed him for breaking the window. (HED)  
 (2) My mother punished me for going out without permission. (CULD)  
 (3) She scolded the child for coming home so late. (CULD)

(1)~(3)のうちのどれかの文の意味がわかりますか。S2さん。

S2: (2)がわかります。「母は私が許可なしに外出したことで私を罰した」です。

T: その通りです。他に(1)か(3)がわかる人がいますか。はい、S3君。

S3: (3)は「彼女はその子がひどく遅く帰ってきたので、その子を叱った」です。

T: よくできました。(1)は「彼の父は彼が窓ガラスを壊したことで彼を咎めた」という意味なのです。

ここで纏めてみましょう。

blame A for B — 「A を B ということで咎める」

punish A for B — 「A を B ということで罰する」

scold A for B — 「A を B ということで叱る」

この纏めからわかるように **for** の意味は、下線のように、前の動詞の理由を表す語になっていることがわかります。前の動詞はどのような意味かという「咎める」、「罰する」、「叱る」のように「叱責・処罰」を表す動詞です。そこで、「叱責・処罰を表す動詞では、その理由は前置詞 **for** で表される」とルールを立ててみましょう。その上で最初の **tell me off** を考えると、**tell me off** の **tell off** も「叱責・処罰」の類の意味を持っていると見当がつくのではないのでしょうか。それで、最初の文を訳してみてください。S4君。

S4: 「昔、僕が宿題をしなかったので先生はよく私を叱った」くらいの訳ですか。

T: Very good. **tell off** の意味は「叱る」の意味なのです。この **for** が使われる場合を次に示しておきましょう。

理由を表す 前置詞 <b>for</b>	動詞の意味 の 範 囲	使われる動詞 (動詞+目的語+ <b>for</b> ~)
	褒 ・ 賞	award, praise, reward, thank, etc.
	叱責・処罰	blame, condemn, fine, punish, scold, etc.

この理由を表す前置詞 **for** のことを、使われる動詞との関係で、よく、賞罰の前置詞 **for** と呼んでいるのです。このような纏まりを知っておくと前置詞から動詞の意味の見当をつけることができるのです。



## 指導用例

sentence での指導：I had to run to catch (come, get, keep) up with her.  
 (LDPV) (up with A → A に接近して肩を並べる)  
Looking down at my feet, I saw the ring that I had  
 dropped. (LDPV)  
 She has always looked down on us for not having a  
 car. (CULD) (「下を見る」が具体的なら down at,  
 抽象的なら down on)

その他の例：look up at/look up to prevent/keep/stop A from B など

## (4) 冠詞—1 (不定冠詞)

## Do's and Don'ts 23

不定冠詞を「一つの」とだけ訳してはいけない。「どの...」  
 や、「どれでもよいが、その」という意味もある。従って、  
 a boy は「どの少年」とか「どの少年でもよいが、その少年」  
 と訳すことも必要である。

不定冠詞はどういう意味を持っているのだろうか。数学でよく「直線上の任意の一点」という言い方をする。この意味は「直線上のすべての点」である。不定冠詞はこの考え方とよく似ているのである。a cat は猫というライン（直線）を考え、その「ラインの上にある任意の一匹の猫」と理解すれば、a cat はどの猫でもよい、すべての猫というように考えられる。a station は「駅」だが、どの駅でもよい。an apple はリンゴならどのリンゴでもよいのである。従って、「駅に行く道を教えてください」と言いたい時、Would you please tell me a way to a station? のように言うと、「駅ならどの駅でもよいのですが、その駅へ行く道をどの道でもよいから教えてくださいませんか?」の意味になってしまい、尋ねられた方はどう答えてよいかわからないのである。

不定冠詞にはもちろん「一つの」の意味はある。例えば Rome was not built in a day. 「ローマは1日にして成らず。」や A stitch in time saves nine. 「今日の1針、明日の10針。」のような諺から She will be back in a day or two. 「彼女は一両日中に帰ってくるでしょう」などの文に見られる場合である。

不定冠詞を「一つの」という訳をすることは簡単であろう。だが、「どの...」の訳も忘れてはならないものである。

[指導] 「不定冠詞」の指導は次のように行うとよい。

T : An insect has six legs. という文があります。英文の意味はわかりますね。S : 1さん。

S-1 : 「一匹の昆虫は六本の足を持っている」です。

T : それでいいのですが、「一匹の」というのはどの単語ですか?

S1 : an というのは「1」の意味ではありませんか。

T : an あるいは a には「1」の意味は確かにあるのです。例えば、この英文を見てください。An apple a day keeps the doctor away. (諺) 下線部の an や a が「1」の意味です。文の意味はわかりますか。S2君。

S2 : 「1日1個のリンゴは医者を遠ざける」です。

T : その通りです。「1日1個のリンゴで医者要らず」というイギリスの有名な諺です。この文では an と a が、1個、1日、のように、「1」という意味になっています。ところが、An insect has six legs. では an insect を「一匹の」と訳す必要がありますか。単に、「昆虫は六本の足を持っている」のように訳してもいいのではないですか。S1さん、どう思いますか？

S1 : それでもいいと思います。

T : a(n) には「1」以外にこの、an insect has ... の場合の意味があるのです。では、どういう意味か説明しましょう。数学の時間に「直線上の任意の1点」という言い方をするのは知っていると思います。

次の直線を昆虫全体を表すものとしましょう。

昆虫

この直線のどの1点を取っても昆虫になるのはわかりますね。これを英語では an insect というのです。従って、an insect は「昆虫」という直線上のすべてを指すことになります。このように、an や a には「どの～」、つまり「すべての～」の意味があるのです。最初の英文、An insect has six legs. の意味は「どの昆虫でも(すべての昆虫は)足が6本ある」となるのです。もう一つ例を出してみましょう。An elephant has a long trunk. (PEG) この英文の trunk は「(象などの)鼻」の意味です。この文には、an と a の両方が使っています。それぞれどういう意味でしょうか。S3君。

S3 : an は「どの～」の意味で、a は「1」の意味です。

T : そうです。では、文の意味はどうですか。S4さん。

S4 : 「象には長い鼻がある」です。

T : その通りです。an と a を入れて訳すと「どの象にも長い鼻が1つある」となります。

指導用例

sentence での指導 : A lion is a dangerous animal. (OWD)

A cat can see even in the dark.

An oak tree is harder than a pine tree..

(5) 冠詞-2 (定冠詞)

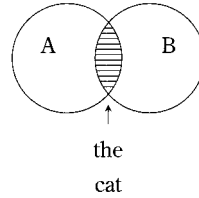
Do's and Don'ts 24

定冠詞を「その」とだけ訳してはいけない。また、「限定されている」と考えても不十分である。定冠詞は「お互

いに知っている ...」と考えるとよい。その上で「その ...」や「この ...」などと訳すようにせよ。

定冠詞は「唯一の」の意味だと思っている生徒が多い。

例えば、the sun は「太陽は一つしかないから the を付ける」と思っている。必しも誤りではない。が、正しいとも言えないのである。定冠詞 the の意味は「話し手、聞き手が共に知っている」と言う意味なのである。sun という単語を辞書で引くと、any of the fixed stars 「恒星」という意味がある。その恒星の中で誰でも知っている恒星だから sun に the が付いて「太陽」となったのである。(4)の例をあげてさらに説明してみよう。



Would you please tell me a way to a station? は答えるのに困る、と述べた。これを、Would you tell me the way to the station? としたら、the way は「あなたが知っている、私が求めている」の意味が出てくるし、the station は「お互いが知ってる駅」となる。例えば、広島駅に近いある交差点で「駅に行く道を教えていただけませんか」と言うのと、尋ねる方もそれを聞いた方も共に広島駅と了解するのである。the が「共に知っている名詞」に使われた例である。上の図は Leech (semantics 1981) の描いた A, B が共通にイメージしている猫の図である。定冠詞はこのような意味を持っているのである。

[指導] 「定冠詞」の指導は次のように行うとよい。

T : 次の対話文を見て下さい。(板書)

A: Hi, where are you going ?

B: I'm going to the post office. And you ?

B の文の意味はわかりますね。S-1君。

S-1 : 「その郵便局に行くところです。」

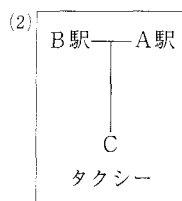
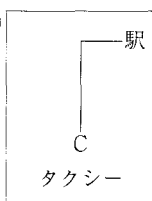
T : 「その郵便局」とは「どの郵便局」ですか。

S-1 : ?

T : the post office の the の意味を説明しておきましょう。タクシーに乗って、「駅まで」と言うことはありませんか。その時、「～駅」と駅を特定しなくても、ちゃんと自分の考えていた駅にタクシーが着くという経験はだれでもしたことがあるでしょう。これは何故でしょうか。それは、乗った人の考えている駅とタクシーの運転手さんの考えている駅が一致したからにほかなりません。それを図に表してみましょう。(1)の図のように、タクシーに乗った地点から駅までの周辺に他の駅がなく、駅と言えはすぐ言った人も、聞いた人も「ああ、あの駅だな」と理解できるのがこの場合なのです。

(2)の図のように、A 駅に行きたい人が C 地点でタクシーに乗り、「駅まで」

というタクシーの運転手さんは必ず「A 駅ですか、B 駅ですか?」と尋ねるはずで、この場合には「駅まで」という言い方ではどの駅かを特定できないのです。試しに、実際にやってみて下さい。このように日本語の「駅まで」



という言い方はお互いの暗黙の了解の上に成り立った表現ということができます。ところが、英語ではその「暗黙の了解の上に成り立った」ということを the が表すのです。the station と言えば、話し手も聞き手も共に了解している駅という意味になるのです。よく、「駅はどう行ったらいいか教えていただけませんか」という英語を Will you tell me the way to the station? のように way, station に the が付いているのは「あなたが知っている、私が求めている最も近い」道であり、「お互いが知ってる駅」と言っているからなのです。そこで、最初の対話文で、B の文に付けられた the は「暗黙のうちに話し手と聞き手が了解している」という意味から the post office は、敢えて訳せば「君も知っている郵便局」となるのです。実際にはそのような言い方をしませんから、the post office はそのまま「郵便局」と訳せばよいのです。この意味の the が使われている場合をもう 1 つ例をあげて説明しましょう。「太陽」や「月」には the sun, the moon のように the が付きます。この the が「お互いに了解している」の意味の the なのです。sun や moon という意味を辞書で引いてみて下さい。sun には「恒星」、moon には「衛星」の意味があります。the sun や the moon は我々みんなが了解している「恒星」や「衛星」なのです。空に輝いている恒星と言えば「太陽」であり、衛星と言えば「月」なのです。だから、sun や moon には the を付けている、と考えるとよいのです。対話文の the の意味がわかりましたか。

指導用例

sentence での指導: We own a dog and a cat. The dog is brown and the cat is white. (Crowell Index)

The moon also rises in the east and sets in the west.

(6) 日本語になり難い語 - 1

Do's and Don'ts 25

mean や expect など簡単な語で日本語になり難い語がある。例えば、I didn't mean it. は「それを意味しなかった」より、「本気じゃなかった」や「そんなつもりじゃなかった」のように訳せ。直訳だけではいけない。

That red flag means danger. (WBW) という文の意味は「あの赤い旗は危険を意

味する」という訳である。mean が「意味する」という意味を持っていることは誰でも知っている。次のような文ではどうだろうか。Do you really mean it? この文を「あなたはそれをほんとに意味するのか」と訳してわからなくはないが、「本気で言ってるの」とか「本気かい」くらいの訳の方がごく自然な訳になっているはずである。このように日本語にする場合、英語そのものの意味をそのまま持つてくるのではなく、そこから生まれる内容をその文が置かれた状況の中でうまく日本語にしていく必要があるのである。Do you really mean ~? を文の中で考えてみよう。次の文はどのような日本語にしたらいいだろうか。

Do you really mean that you can't tell the difference between butter and margarine? (WBW) この文は「バターとマーガリンの違いがわからないと本気で言っているの」と訳すのであって、「バターとマーガリンの違いがわからないことを本当に意味するのですか」ではないのである。

expect も場合によっては訳しにくい語である。When can I expect you? という文を考えてみよう。「いつあなたを期待できるか」では日本語にならない。「いつお見えになりますか」が日本語として普通の訳であろう。I'm expecting a taxi. (LEA) はタクシーを予約した人が「タクシーを待っている」、の意味である。従って、When can I expect you? は、相手との話で、例えば、相手が今日（今週）来るということが決まった場合に「いつ（何時／何曜日）にあなたを期待したらいいか」から「いつお見えになりますか」という訳になるのである。

語ではないが、be supposed to ~ も訳し難い表現である。Lucy is supposed to come to lunch. What's happened? (PEU) の文を考えてみよう。「ルーシーはランチにくると考えられている。何が起こったのか」という訳では今ひとつはっきりしない。「ルーシーはランチに来ることになっているんだが、どうしたんだろう」くらいの訳が普通であろう。be supposed to には“Be supposed to has a meaning rather like *should*. It is used to talk about what people have to do according to the rules or the law, or about what is expected to happen.” (PEU) 「be supposed to には should と非常によく似た意味があると考えられている。この句は、ルールや法によって人が何をしなければならないか、あるいは起こるはずになっていることをいう場合に使われる語である」の意味がある。日本語では「～するはず、～することになっている、する義務がある」などの訳をあてるとよい。この be supposed to には“If people are supposed to do something, they have a duty to do it...But people often do the opposite.” (WBW) とあるように、be supposed to が使われる文では「～することになっているのにしない、～するはずなのにそうになっていない」などの含意 (connotation) がある。

[指導] 「日本語になり難い語-1」の指導は次のように行うとよい。

T : プリントの次の文を考えてみよう。

Maturity is the ability to live up to your responsibilities and this means being dependable. It means keeping your word. Dependability is the hallmark of integrity. Do you mean what you say – and do you say what you mean? Unfortunately, the world is filled with people who can't be counted on. (Ann Landers *Asahi Evening News* 99/7/17)

下線部の英文を見て下さい。下線部までを日本語にしてみましょう。「大人になるということは責任を回避しないで生きていける能力のことである。そしてこのことはあなたが当てにできる人間だということなのである。それは約束を守るということである。人に頼られるということは誠実さの証である。」この訳の次にプリントの下線部が出て来ます。さあ、どんな日本語にしたらいいでしょうか。前半はどうですか、S-1 君。

S-1 : 「あなたはあなたが言ってることを意味していますか」ですか。

T : 「あなたが言ってることを意味していますか」とはどういう場合にいう言葉ですか。S-1君。

S-1 : 相手の言葉に対して念を押す場合です。

T : その通りですが、それでは、どういう日本語にしたらいいでしょうか。S-2 さん。

S-2 : 「本気で言っていますか」くらいの訳になるのではないのでしょうか。

T : その通りですね。では、後半はどういう日本語にしたらいいでしょうか。S-3 さん。

S-3 : 「あなたは意味することを言っているのですか」ですか。

T : それでは前に訳した文に続けて、2人に訳してもらった文を入れ、最後の文を訳してみましょう。いいですか。「大人になるということは責任を回避しないで生きていける能力のことである。そしてこのことはあなたが当てにできる人間だということなのである。それは約束を守るということである。人に頼られるということは誠実さの証である。あなたは本気で言っているか。そして、あなたは意味することを言っているか。世の中には頼りにならない人が多いのである。」さて、これで下線部の意味がわかりますか。下線部がやはりおかしいと思いませんか。S-3さん。

S-3 : 思います。

T : ではどう訳したらいいと思いますか。S-4 君。

S-4 : ? わかりません。

T：では考えてみましょう。前半の部分は「本気で言っているのか」というのは正しい訳なのです。次の文を考えてみましょう。do you say what you mean? の what you mean を前半の文から考えてみます。前半は Do you mean what you say? でその答えを考えてみましょう。「本気で言っているのですか」ですから、その答えは Yes, I do. か No, I don't. になるはずです。Yes. の場合を考えると、Yes, I do. は I mean what I say. ということになります。この I mean what I say. が、次の文の what you mean という表現に代わっているのです。従って、「本気で言っているのですか」に続いて、その「本気の気持ちは本当ですか」と念押しをしたものなのです。日本語では「あなたは物事を言う時は本気で言っていますか。そしてそれは本当ですね。」くらいの意味になるのです。これを全体の訳の中に入れてみてください。「大人になるということは責任を回避しないで生きていける能力のことである。そしてこのことはあなたが当てるにできる人間だということなのである。それは約束を守ることである。人に頼られるということは誠実さの証である。あなたは物事を言う時は自分気持ちを偽らず本気で言っているか。そして、それに嘘はないか。世の中には頼りにならない人間は多いのである」くらいの意味になるのです。このように mean を使った文を日本語にする時は前後関係をよく見て訳して下さい。

指導用例

sentence での指導：Oh, that's not what I mean, Dad. What I mean is that Mother never has any excitement in her life. (V. F. Allen *People in Livingston*) What are you doing here? You are supposed to be ill in bed. (WBW)

(7) 日本語になり難い語-2

Do's and Don'ts 26

generalize, identify などの動詞、それらの語から派生している名詞、形容詞などを日本語に訳す場合は辞書の訳をそのまま使うのでは不十分である。それらの語の意味がどういう内容を述べたものかを把握し、訳す必要がある。

次の文を考えてみよう。He is trying to generalize from only two examples. (CULD) である。この文は「彼はたった二つの例から一般化しようとしている」という訳にする場合が多い。ところが、「一般化する」という日本語はわからなくはないが、こなれた日本語とは言い難い。これを「彼は二つの例だけで判断して全体を決めつけているんだ。」という訳にした方がもっと理解できる。もう一つ例をあげてみよう。identification は英和辞典をみると「同一人(物)であるとの確認、検証、鑑定」という訳が出る。この訳で Health Officers are working hard on the identification of the source of the food poisoning. (LLA) を訳すのは大変である。訳は「保健局の職員達

は食中毒の原因が何かを突き止めようと必死になっている」くらいだが、下線部は「食中毒の原因はこれだ、とすること」の意味で、identification は「あつ、これだ、と、わかること」なのである。上の英和辞典の訳だと、「同一物であるとの確認、検証、鑑定」ということになる。generalize も identification も共にうまく日本語に訳すことが困難な語である。このような語を使った文を訳す場合は十分にその語を理解しておく必要がある。

【指導】「日本語になり難い語-2」の指導は次のように行うとよい。

T : Human beings like to generalize. という文を訳してみよう。この文に続いて次のような文が表れる。Human beings like to generalize. Every race has its wise sayings, like “Honesty is the best policy,” or “No news is good news.” 後半は「どの国の人間にも『正直は最善の策である』とか『便りの無いのは良い知らせ』のような賢明な諺がある」の意味である。では、前半の意味はどういう意味だろうか。S-1君。

S-1 : generalize はどういう意味ですか。

T : 辞書を引いてみましたか。もしまだなら、今、引いてみて下さい。

S-1 : 「一般的に言う」という意味ですか。

T : それで訳してみましょう。

S-1 : 「人間は一般的に言う事が好きである」ですか。

T : では、この訳を全体に入れてみましょう。「人間は一般的に言う事が好きである。どの国の人間にも『正直は最善の策である』とか『便りの無いのは良い知らせ』のような賢明な諺がある」となりますね。この訳で、前半の部分が後半とびたり合いますか。なんとなく、前半の訳が後半の訳と合わないのではないかと思うのです。前半と後半の関係がわかりますか。S-2 さん。

S-2 : 前半の文を具体的にしたのが後半の文です。

T : その通りです。では、その関係から考えて前半の文を訳してみて下さい。

S-3 君。

S-3 : これ以上うまくは言えません。

T : そうですか。では考えてみましょう。例えば、「正直は最善の策である」という言い方は「正直はこうだ」と「正直」の定義づけに近いものなのです。それがさらに進められていくと断定ということにもなります。この「定義づけ」や「断定」は多くの場合、「AはBだ」という形式を取って表れることが多いのです。そこで最初の文は「人間はAはBだと物事を断定するのが好きである」のように考えればいいのではないのでしょうか。generalize は「AはBだと物事を断定する」くらいの意味にすればいいのです。S-1, S-3君、わかりましたか。では、次の文を考えてみて下さい。Wild generalizations are often made



when some people want to be paid attention to. この英文を訳してみてください。

S4さん。

S4：「人の注意を引きたい時、荒々しい断定がなされる」ですか。

T：「荒々しい断定」とはどんなものですか。

S4：よくわかりません。

T：wild の意味を考えてみましょう。Going over Niagara Falls in a barrel is the wildest stunt I've ever heard of. (BBSA) この文の stunt は「離れ業、曲芸」などの意味で、日本語では stunt man という語がよく使われています。barrel は「たる(樽)」の意味です。この文の意味はどうでしょうか。S4さん。

S4：「たるに乗ってナイアガラの滝を越えるのは聞いたこともないような馬鹿げたことだ」くらいの訳です。

T：Good. では、wild はどういう意味ですか。

S4：「馬鹿げた」です。

T：それでは wild generalization の wild を「馬鹿げた、雑な」くらいの意味で訳してみましょう。S5さん。

S5：「人の注意を引きたい時、馬鹿げた(雑な)断定がなされる」です。

T：「馬鹿げた(雑な)断定」とはどんなことかわかりますか。S6君。

S6：一方的な断定ですか。

T：Very good. では、そのような断定を日本語ではどう言っていますか。S7さん。

S7：「決めつけ」ではないですか。

T：Excellent. 従って、Wild generalizations are often made when some people want to be paid attention to. は「決めつけは人の注意を引きたい時に行われる」くらいの訳になるのです。generalization は「断定」のように訳したり、時には「決めつけ」のように前後関係から訳していくとうまく訳せるのです。

#### 指導用例

sentence での指導：I know I shouldn't generalize, but I do think men find it difficult to show their feelings. (LLA)  
After years of research scientists have identified the virus that is responsible for the disease. (LLA)

語彙の指導はこれ以外にも多くの場合があろう。例えば、日本語の「朝食」と英語の breakfast とを比べてみると日本語の「朝食」には「みそ汁・漬け物・ご飯」のイメージがつきまとうのに対し、英語の breakfast にはそういうものがない。bacon and eggs か sunny-side up (めだま焼き) と toast か bagel さらには porridge や corn-flakes などの他に tea か coffee などである。従って、I had breakfast. という英語を

聞いて、日本の台所の和食を想像してはいけないはずである。この例のように日英の文化の違いを背景において考えなければならない語彙もある。また、英語の歴史を考えなければ英語における語彙の dichotomy (二面性) は教えられないだろう。

このように語彙の指導はさらに多くの研究すべき点がある。が、このレポートはここでひとまず措き、次は統語法(文法)の指導法に移りたい。これまでの参考文献はすべての項が終わった後提示する。